



# 光 和

6月号  
練馬区立光和小学校  
令和8年5月29日

光和小  
携帯サイト



## 寄り添う存在の心

校長 宮林 伸之

新年度が始まり2か月が過ぎました。

5月初旬には、校庭に咲く「のぼら」が咲き誇り、観る者の心をつかみました。言うまでもなく「のぼら」は本校の校章に描かれている花であり、本校の象徴です。

この校章は、開校当時の保護者の八幡健二氏によるデザインです。校庭にあって5月に花が咲く「のぼら」は5つの花びらがあります。校章にも5つの花びらがあり、その中に光和の「光」の文字が巧みに組み合わされています。「のぼら」は、この地に多くみられ、花は小さいけれど根が強く生命力が旺盛な植物です。その根強さから「確実な発展」という気持ちが込められているのです。



【のぼら 正門の前】

さて、子供たちは学校生活にも慣れ、笑顔で生活する姿が見られるようになってきました。1年生から4年生は遠足も終え、友達との関係も深まったようです。

2年生の遠足帰り、車中での出来事です。年配の女性が乗車してきました。車内の座席は子供たちで埋まっています。「どうするのかな」と見ていると…一人の子がスッと立って席を譲ったのです。お年寄りの方は「ありがとうね」とお礼をし、安心した様子で席に座りました。私は、遠足で疲れている中、このような態度ができる子を誇りに思いました。

話は変わりますが、「ちむぐりさ」という言葉をご存じでしょうか。

沖縄の島言葉で「他人の苦しみや哀しみに触れたときに、自分も同じようにその苦しみなどを感じる」という意味です。この言葉は、悲しんでいる人、孤立している人、苦しんでいる人の気持ちに共感して寄り添う存在の心を表しています。とても素敵な言葉です。先にあげた車内で席を譲った子を思い出します。

また、先日、登校時に子供たちを出迎えていた時のことです。一人の子が昇降口の前で立ち尽くしていました。送ってくださった保護者の方と別れて哀しい思いをしていたのです。すると、同じクラスの子が通りかかり「どうしたの？ 哀しいの。」と心配そうな顔で尋ねました。そして、しばらくの間その場で手を握りたたずんでいました。その後、同じクラスの子が「大丈夫だよ。」と言って靴箱へ…。とても心が温かくなりました。

相手を思う気持ちが伝わったとき、人は一歩踏み切る勇気が湧いてきます。

人の心を癒す尊い贈り物は、「温かな思いやりの心と真心のこもった言葉」だと実感しました。

「自分を大切にす り 他の人を大切にす り」

この言葉は、初めて光和小の子供たちと出会ったときに伝えたことです。

私も、縁をもった子供たち、教職員、保護者の皆様、そして地域の皆様へ「温かな思いやりの心と真心のこもった言葉」を大切にし、学校経営に努めてまいります。